

学校法人 河原学園 未来高等学校 R7年度年間指導計画

教科	地理歴史	科目	歴史総合	学年	1年次	単位数	2単位
教科書	東京書籍 新選歴史総合		副教材	なし			
レポート 添削指導	6通	スクーリング 面接指導	2回	メディア 視聴票	1通	試験	2回
指導目標	<p>①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して画義される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>						
No	日付	レポート 提出日	単元	学習内容	面接 回数	メディア(NHK高校講座)	
1	4月12日	5月22日	第1章 歴史の扉 第2章 近代化と私たち 1節 近代化への問い	<ul style="list-style-type: none"> ○諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。 ○交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 1 なぜ歴史総合なのか 2 18世紀のアジア 3 産業革命と世界経済の変化 4 近代社会と国民国家 5 近代国家への道のり 6 帝国主義の時代 7 20世紀はじめの世界 	1
2	5月22日	6月19日	第2章 近代化と私たち 2節 結び付く世界と日本の開国 3節 国民国家と明治維新	<ul style="list-style-type: none"> ○産業革命を経て、世界各地の経済がどのように変化したか理解する。 ○市民革命はどのような社会の仕組みを生み出したか理解する。 ○明治維新は、どのような国際環境の中で起き、日本社会をどのように変えたのかについて理解する。 ○アイヌと琉球の歴史を学び、東アジアの近代化について理解を深める。 ○帝国主義とは何かを理解する。また、帝国主義国の植民地獲得競争がどのように繰り広げられたのかについて理解する。 			
3	6月19日	7月17日	3節 国民国家と明治維新 4節 近代化と現代的な諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ○日清戦争が東アジアの国際秩序にどのような影響を与えたのかについて理解する。 ○帝国主義国家どうしがどのような関係を築いたか理解する。 ○自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。 			
4	7月17日	10月29日	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 2節 第一次世界大戦と大衆社会	<ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦はどのように展開し、第一次世界大戦後の国際協調体制について理解する。 ○ソヴィエト連邦の成立と、社会主義運動の拡大とアメリカ合衆国の台頭と大衆文化の広がりについて理解する。 ○第一次世界大戦後の国際協調体制の崩壊について理解する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 8 第一次世界大戦と戦後の世界～大衆社会・戦争・国際協調体制～ 9 ソ連の登場とアメリカの繁栄 10 国際協調体制の変容 11 国際協調体制の瓦解 12 第二次世界大戦と戦後秩序の形成 13 戦後世界の船出とアジアの再編 14 冷戦の変化と脱植民地化 15 冷戦下の日本の政治と経済成長 16 ベトナム戦争と世界秩序の変容 17 石油危機とアジアの経済発展 18 冷戦の終結 19 グローバル化とこれからの世界 20 現代的な諸課題の形成と展望 	
5	10月29日	11月27日	3節 経済危機と第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ○第二次世界大戦の勃発とその拡大、および日中戦争との結び付きについて理解する。 ○アジア太平洋戦争の展開と、日本の敗戦について理解する。 ○連合国の占領政策と冷戦の始まりについて理解する。 ○冷戦下に再編されたアジア諸地域の動きについて理解する。 			
6	11月27日	1月23日	第4章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ○冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。 ○世界各国で進んだ民主化の動きと、日本の政権交代について理解する。 ○冷戦終結後に進んだグローバル化と地域統合について理解する。 			
学習の成果に係る評価規準							
【知識・技能】							
<ul style="list-style-type: none"> ○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 ○諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 							
【思考力・判断力・表現力】							
<ul style="list-style-type: none"> ○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 							
【主体的に学習に取り組む態度】							
<ul style="list-style-type: none"> ○近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。 							
<ul style="list-style-type: none"> ○上記の評価規準に基づき、レポート及び課題等の提出物の状況、スクーリングに取り組む姿勢及びスクーリングに基づく成果、前期・後期2回の試験結果を総合的に判断して、評価を行う。 ○【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点ごとに、それぞれ上位からA、B、Cの三段階で評価を行い、その観点別評価に基づき、総合的な評価を5段階（最上位を5とし、最下位を1とする）で評価する。 							
単位の修得の認定に関する基準							
観点別評価に基づいて総合的に評価された5段階評価のうち、5～2の評価を受けた者に対して、科目に配当された単位数の修得を認める。							